

# 文句ばあさん

その1

もんくばあさん



作:近藤せいけん



ある町に子供をみると、お小言や文句を言うおばあさんがいました。

今日も小学校の帰り路、文句ばあさんの家の前を通りますと、おばあさんが家の前の路をほうきで掃いていました。

「そこの赤いランドセルの子、あなた。あなたよ」

「え、わたしですか・・・」

「そうよ、あなた、あなたよ」

「はい、何か、御用ですか？」

「そうよ、用があるから、呼んだのよ」

「はあ、・・・」

「あなた、いつも、この路を通っているね」

「はい、学校に行くため、通りますが・・・」

「そうですね、毎朝見かけるが、このわたしに挨拶したことないでしょう」

「いつも、わたしの前を通りすぎていくわ」

「一度ぐらい、おはようございます。こんにちは。て、挨拶してもいいんじゃないの」

「はい、え、そのとうりです。」

「じゃ、今から挨拶なさい」

「はい、こんにちは・・・」

「そう、そう、こんにちは」

「ところで、あなたのお名前は？」

「はい、工藤 あけみと言います」

「何年生なの」

「3年生です」

「どこに住んでいるの」

「はい、あそこに見える団地に住んでいます」

「お父さんは何をしているの」

「父はわたしが保育園の時、事故でなくなりました」

「あ、そうなの・・・」

「ご家族は」

「母と保育園に行っている弟と3人です」

「そう、お母さんは働いているの」

「はい、そこのスーパーで働いています」

「弟さんの保育園には誰が向かえにくの」

「はい、わたしが、学校を終わってから、迎えにゆきます」

「そうなの、あなたはエライね」

「今度、弟さんを連れて遊びにきなさい」

「え、いいんですか」

「はい、いいよ。待っているから」

「ありがとうございます」

「うん、それじゃ待っているよ」

文句ばあさんにはおじぎをしてから、団地に向かって歩き始めました。

後ろから、男子の一团が通り過ぎようとしていました。

一人の子がポケットに手を入れて、路一杯に広がって歩いていました。

「そこの男の子、ポケットから手を出しなさい！もっと左側を歩きなさい！」

「ワア、ワア、ア～文句ばあさんだ」

「逃げろ、逃げろ～ダ、ダ、ダァ」

「待ちなさい、悪たれ坊主」

「ワア、ワア、ア～逃げろ、逃げろ」

悪たれ坊主の男子の一团が駆け出して、逃げて行きました。

翌朝、あけみちゃんが文句ばあさんの家の前に来ました。

いつものように、おばあさんが路を掃いていました。

「おばあさん、おはようございます」

「おお、あけみちゃんおはよう」

「弟は保育園に送ったのかえ」

「はい、送ってきました」

「それは、いい子だね。今日は帰りに弟を連れて来なさい」

「はい、いいんですか」

「ああ、いいちも、いいとも」

「待っていると、さあ、早く学校に行きなさい」

「はい、行ってきます」

おばあさんはあけみちゃんの姿が見えなくなるまで、ほうきを持って立っていました。